

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
 アドミニストレイティブディレクター 渡部 中子
 コンサートマスター 藤田 めぐみ
 インスペクター 金岡 秀典/山川 奈緒子
 ライブラリアン 多田 圭介
 プロデューサー 小坂井 司
 事務局 渡辺 晶子/鈴木 光子/駿河 洋子/青木 勝弘

● Violin I

◎藤田 めぐみ
 山川 奈緒子
 宮林 陽子
 中澤 真理子
 鈴木 順子
 坂井 みどり
 室井 美子
 鈴木 わらび
 綱木 郁
 大津 千代子
 徳井 えま
 福田 貴子
 神野 桂子
 迫田 信子

● Violin II

○上原 まさみ
 山江 洋子
 山本 佳子
 岡田 邦子
 小澤 薫
 高階 久美子
 樋口 美佐子
 栗原 りか

犬飼 素子

田中 大輔
 影山 優子

● Violas

○桜井 多美子
 竹鼻 江美子
 堀江 冬子
 光行 澄子
 松田 美奈子
 高瀬 有美
 浅川 文
 尾台 和佳
 飯塚 三枝子

● Violoncellos

○齋藤 章一
 橋本 しのぶ
 鈴木 和生
 松 穰
 大島 純
 加藤 浩樹
 富成 倫子
 仙石 由紀子
 山幡 正光

● Double basses

○青山 幸成
 飯田 克哲
 石川 仁
 寺田 和正
 須永 秀樹
 上川 めぐみ

● Flutes

井ノ上 洋
 内山 豊美

● Oboes

徳田 振作
 井上 恵子

● Clarinets

西尾 郁子
 小山 裕子

● Bassoons

藤田 旬
 齋藤 美和子

● Horns

小川 正毅
 月原 義行
 松浦 光男
 小林 祐治

藤原 奈津子

● Wagner tubas

小笠原 一弘
 大森 啓史
 源 真理
 飯島 さゆり

● Trumpets

中西 清一
 染谷 始
 奥野 儀光

● Trombones

大内 邦靖
 福井 実織
 ● Bass trombone
 玉那覇 力

● Tuba

松下 見一

● Timpani

伊沼 弘能

● Percussion

石澤 学
 船迫 優子

● Stagemanager

金岡 秀典



東京ニューシティ管弦楽団

第26回定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団 2002~2003年定期演奏会

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰

■第27回定期演奏会

9月13日(金) 19:00~ 東京芸術劇場(大)
 指揮:エンリケ・パティス ヴァイオリン:瀬川 祥子
 ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」 チャイコフスキー ヴァイオリン
 協奏曲 ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」

■第28回定期演奏会

12月4日(水) 19:00~ 東京芸術劇場(大)
 指揮:内藤 彰 テノール:アントニーノ・シラグーザ
 ロッシーニ・ドニゼッティ他 オペラアリア・序曲・間奏曲集
 ※ソリストの都合により、日程が変更となりました。

■第29回定期演奏会

2003年1月31日(金) 19:00~ 東京芸術劇場(大)
 指揮:内藤 彰 チェロ:ジョン・ミュンファ
 ドヴォルザーク チェロ協奏曲
 シューマン 交響曲第4番 他

お問い合わせ・お申込み 東京ニューシティ管弦楽団事務局 Tel:03-5952-7617 Fax:03-5952-7618 <http://www2.plala.or.jp/newcity/>

●団体割引・セット券割引については事務局にお問い合わせください。●やむを得ぬ事情により、出演者、曲目が変更になる場合がございます。何卒ご了承ください。



音楽界のサポーター

より良いコンサートのために……。

アイ・エム・エス ●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうてんビル1F PHONE.03-3397-2292 FAX.03-3397-7728
 URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~ims> E-mail ims@jade.dti.ne.jp

2002年6月24日(月)

午後7時開演

東京芸術劇場大ホール

■主催 東京ニューシティ管弦楽団

〈本日のロビーコンサート〉
 フェレンツ・ファルカシュ 「古代舞曲集」より

今夜のプログラムをめぐって

奥田 佳道

T O K Y O N E

ラフマニノフ (1873~1943) ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18

これぞ鍵盤に華と咲いた名協奏曲。妖艶なロシアン・ロマン、スケール感あふれる楽の音が聴こえてくる。歴史的なヴィルトゥオーゾ・ピアニストでもあった作曲家による逸品。感傷を帯びた旋律も激情も聴きものだ。ウクライナ(旧ソ連の大国。東欧に隣接し、黒海にも面している。首都はキエフ)を代表するピアニスト、ユーリ・コートの懸命なピアニズムに期待が寄せられている。ちなみに、内藤彰と東京ニューシティ管弦楽団は昨年11月、ラフマニノフのもうひとつの傑作であるピアノ協奏曲第3番ニ短調(ソロ:稲田潤子)に腕を振ったところだ。

グラスノフの指揮で初演された交響曲第1番が、ロシア楽壇の大御所キューイ(ロシア5人組=力強い仲間の一人)に「もしも地獄に音楽学校があったならば、彼はそこの優秀な学生になるだろう」と酷評され、立ち上がれないほどの大打撃を受けたセルゲイ・ラフマニノフ。酷評の背景には、チャイコフスキーの流れを汲みラフマニノフも属した格好になる「ロシア派」と、ロシア国民音楽の伝統継承を金看板にしていた「ペテルブルク派」の確執があったのだが。ちなみに初演を台無しにしたグラスノフはペテルブルク派である。

ラフマニノフにとって不運はさらに続き、シャリアピンに捧げた歌曲《運命》も、敬愛するトルストイから不出来の烙印を押されてしまう。極度の精神衰弱に陥り、しばらくの間作曲の筆を折るのだが、1900年に精神科医ニコライ・ダール博士と出逢い、博士の暗示療法によって自信を取り戻す。「信じられないことだが、彼の治療は本当に効果があり、夏の始まりには作曲を再開することが出来た」(ラフマニノフ)。

ピアノ協奏曲の歴史に燦然と輝くラフマニノフのピアノ協奏曲第2番ハ短調は、彼の自信回復宣言の1曲でもあった。

曲は第2・3楽章が先に完成し、ラフマニノフの「復活」を待ち切れない人々に促される形で1900年暮れに部分初演された。全曲初演は1901年10月。いずれもモスクワで、ピアノはもちろんラフマニノフ自身である。

第1楽章:モデラート

第2楽章:アダージョ・ソステヌート

第3楽章:アレグロ・スケルツァンド



ユーリ・コート(ピアノ)
Yuri Kot

ウクライナ共和国を代表するピアニスト。キエフ音楽院、及び同大学院にて、ウラジーミル・ロストフ教授に師事し、ウクライナ音楽コンクールピアノ部門第1位、第1回プロコフィエフ国際コンクール第2位、第45回ミュンヘン国際コンクールピアノデュオ部門入賞など数々の国際コンクールに入賞を重ねる。

アメリカ、ドイツ、ロシアなどにおいて国際的ピアニストとして活躍するかたわら、1994年以後、母校のキエフ音楽院教授として後進の指導にあたっている。1995年、ウクライナ共和国政府より同共和国名誉芸術家の称号を授与された。



東京ニューシティ管弦楽団
Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナター・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・ブライ、カーティア・リッチャレツリ、マリエツラ・デビーア、マリア・キアーラ、渡辺葉子、アグネス・バルツァ等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶讃の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団ミラノスカラ座バレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーン等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、近年その活動が各方面から注目されている。

2000年度より定期演奏会を年間5回に増やし、東京第9番目のオーケストラとして今後の活躍が益々期待されている。



内藤 彰(指揮)
Akira Naito

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティフィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニクは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大なる信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァローニシュ歌劇場にて、「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大なる賞讃を受けた。1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。昨年3月サンクト・ペテルスブルグ・カペラ交響楽団に客演し、その模様は新聞、テレビ等で大きく取り上げられ話題を呼んだ。昨秋よりロシア国立ウリヤノフスクアカデミー交響楽団常任客演指揮者に就任、昨年末には、北ハンガリー交響楽団を指揮する。現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。